

うやく目を覚ました私ですが、もう遅いのです。

「もう終わりだ！ 支払いができない」

このときには、既に、あらゆる支払いが滞り、山のような請求書が机の上に溜まってしまっていました。

差し押さえられた夢のマイホーム

「ポストの中、溜まっていますよ。確認してくださいね」

インターフォン越しに言われ、郵便局員のバイクの音が遠ざかってから、パジャマ姿の私は、近所の人が周辺にいないかをよく確認し、外に出ました。

ポストに手を入れ、ガサツと大量の郵便物を取り、中身を確認することもなく、机の上に放り投げました。

どうせ、見たところで、支払えるものなんて何もありません。そして、郵便物は請求書や督促状だと思っていたので、目を通すことはありませんでした。

そのうちインターフォンが鳴っても、応答しなくなりました。

ピンポンと鳴っても居留守をします。

「松本さん、いらっしゃいますか？」

車があるので、一応声をかけてくれたのでしょう。その日も居留守をして出ませんでした。

昨夜の夕食も、朝も昼も食べていなかったもので、乾燥わかめを茹でようとする
と、IHコンロの電源が入りませんでした。

「電気、止められた」

子供たちが幼稚園から帰ってきてても、お風呂を沸かせないので実家に帰りま
した。

私には熊本に住んでいた小学校4年生のとき、「死ね」と机に彫刻刀で掘られて
から不登校になったという過去があります。

両親は、なんとか学校に通うようにと私を説得し、私自身も学校に通いたいとい
う気持ちがあったのですが、朝になると吐き気に襲われ食べ物もまったく食べられ
なくなり、身長は平均より高かったのにも関わらず、体重は小学2年生の平均体重